

特集

人口減少問題と移住・定住を考える

町外から「ひと」を呼び込むために



「若者の町外流出」と「出生率の低下」……。どれも今、地方が直面する問題で人口減の大きな要因と言われています。今年5月に公表された令和2年国勢調査（令和2年10月1日現在）の人口速報では、本町の人口は1万4332人と前回（平成27年）の1万5826人よりも1494人減少。この右肩下がり傾向は町の第2期人口ビジョンの将来人口推計でも示されていて、令和22年には1万人を割ると予測されています。町では人口減に歯止めを掛けようと平成30年度に移住コーディネーターを配置し移住者を増やす対策を進めているところですが、町の事業をきっかけに昨年度には6人、本年度は9月末時点で9人が町内に移り住むなど、取り組みに対する反応も見え始めています。今号では、町の移住・定住をめぐる動きにスポットを当てながら、人口減少問題と町外から「ひと」を呼び込むための方策などを考えます。

若者の転出や出生率の低下が人口減の要因に

町の人口は、国勢調査によるとグラフ1のとおり昭和55年の2万5321人をピークに減少し続け、今年5月に公表された令和2年の人口速報では1万4332人と、40年間でおよそ1万1千人減少しました。町が昨年度末に策定した第2期人口ビジョンの将来人口推計（グラフ2）では今後も人口減が進み、令和22年には9207人と遂に1万人を割ることが見込まれています。

人口減の要因とされる若者の転出の状況を見てみると18歳が多く、過去4年間（平成28年～令和元年）では平均で43人の転出超過（転入者数を上回る人数）となっていて、主に進学や就職をきっかけにしたものと見られます。

一方、平成12年に201人だった本町の年間出生者数は、令和2年で67人と、20年間で3分の1まで減少。1・88人だった合計特殊出生率（一人の女性が15歳から49歳までに産む子どもの数の平均）は、過去5年間（平成25年～29年）で1・60人になっていて、出生率の低下も人口減の要因となっています。



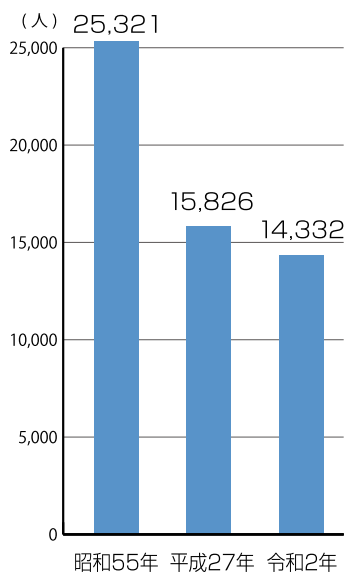
「移住お試し住宅」で山田町での生活体験ができます

■令和2年度に移住した6人

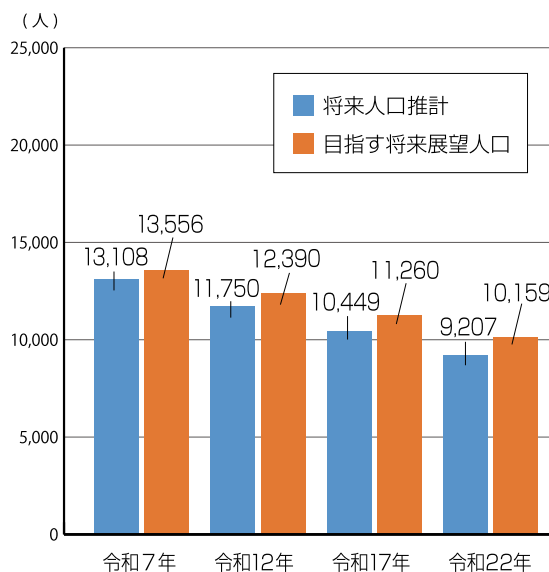
移住者	年齢	性別	移住元
Aさん	30代	男	千葉県
Bさん	60代	男	県内
Cさん	50代	男	県内
Dさん	10代	男	県内
Eさん	10代	男	県内
Fさん	10代	男	県内

※町の移住・定住促進事業をきっかけに移住した人たちです。

■グラフ1 国勢調査人口
※令和2年は速報値



■グラフ2 将来人口の展望
(第2期人口ビジョン)



**6 昨年度の移住相談44件
人が町内に移り住む**

人口減少が進む町では、本町に興味や関心を持って住んでいる人たちに一人でも多く移住・定住に前向きになってもらおうと、平成30年度に移住コーディネーターを配置し、きめ細かな相談や支援ができる体制づくりと受け入れができる仕組みづくりを進めてきました。

町のホームページなどを活用した町の魅力発信や移住相談に加え、令和元年度には移住希望者が山田型住宅のモデルハウスに滞在し生活体験できる「移住お試し住宅」をスタート。さらに2年度には空き家を提供している人と結び付ける「空き家バンク」や住宅リフォーム補助制度などを立ち上げています。

町総合計画の後期基本計画（令和3年度～7年度の策定の際に行った「中高生アンケート」（令和2年9月）で、町外へ出る理由として最も多かったのが「学校や職場がない」ことでした。進学などで一度町を離れた若者

各種対策を進め令和22年の1万人維持を目指す

町が受け付けた移住相談件数は、令和元年度が延べ23件、2年度は延べ44件と倍増し、町の新たな取り組みをきっかけに町外からの問い合わせも増え、昨年度は6人、本年度は9月末時点で9人が移住し、本町での生活を始めています。

が町に戻ってくるのは、卒業後の就職や結婚、親の介護などのタイミングが多いため、この年代の人たちをどのようにして増やすかなどが課題として挙げられています。

このため、町は令和22年度までにこの年代のUターン・移住人口を3割増やすことや合計特殊出生率を1・60人から1・80人まで改善させることを目標に、若者の雇用の場の確保や若い世代の結婚から出産、子育てまでを支援する地域づくりなど「第2期山田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げている施策を中心に対策を進め、グラフ2で示す将来展望人口のとおり、令和22年の1万人台維持を目指すことにしています。

町総合戦略

「中高生アンケート」結果から

※令和2年9月実施から抜粋

- 「町外に住みたい」と回答した人で高校卒業後に山田町に住まない理由（上位回答）
 - ①学校や職場がない・・・47.3%
 - ②通学や通勤が不便・・・21.8%
 - ③買い物をするとところがない・18.2%
- 山田町に住み続けたい・住みたいと思ってもらうための効果的な方法（複数回答・上位回答）
 - ①交通の便の充実・・・33.5%
 - ②就職に関する支援・・・32.6%
 - ③出産・子育てに関する支援・28.5%
 - ④住まいに関する支援・・・25.5%
 - ⑤移住してくる人への支援・・・21.8%

次ページに続きます



移住者対談 「やまだ暮らし」で思うこと



進行役・森 宏子
(移住コーディネーター)

本町に移住し、「やまだ暮らし」をスタートさせた人たちが、移住を決めた理由は何なのでしょう。実際に町内で生活してみて、本町の魅力や弱みをどのように受け止めているのでしょうか。そこで、9月29日、町政策企画課の森宏子移住コーディネーターが、「やまだ暮らし」で思うことをテーマに、町の取り組みをきっかけに今年移住された二組と対談し、町外から「ひと」を呼び込むために必要なことなどを話し合いました。



埼玉県(越生町)から移住した
藤澤 義友さん(45)

藤澤さんは、山田地区にある物件に町のリフォーム補助金を活用し、今年7月に移住。町内の事業所に就職しました。アウトドアが趣味で、マリンスポーツなどにも興味をお持ちです。

森 昨年、藤澤さんは埼玉県から、神子夫妻は神奈川県からそれぞれ山田町へ移住されました。山田町へ移住を決意した決め手は何でしょうか。

藤澤さん 私は、出身の盛岡市の実家へ戻ろうかと考えていた矢先に、知人から町内の事業所を紹介されました。住むには不便な環境かなと心配もありましたが、アウトドアが好きな自分には、海が近いというのは魅力的で、山と海の両方を楽しめる環境でもあったので、山田町に移住を決めました。昔に比べれば、実家との往来も負担なくできる道路状況になったことも決め手でした。

神子夫妻 私たちは、宮古市に嫁いだ娘家族の近くに住みたくて移住先を探していました。実際に町の「移住お試し住宅」を利用して数日過ごしたところ、

三陸沿岸道路を使えば30分以内に孫に会える環境であることが分かり、いい物件も見つかったので、山田町に住むことにしました。

した。極端なことを言えば、三陸沿岸道路が無かったら山田町は移住の候補に挙がらなかったと思います。

■移住してみていること

景観文句無し、町民の優しい人柄に安心

森 移住してみて、今の感想をお聴かせください。

藤澤さん 私の住んでいる家からは山田湾が見えるのですが、

■移住支援金交付事業

東京圏から本町へ移住し、就業や起業した人の経済的負担を軽減するために、2人以上の世帯で100万円、1人世帯で60万円交付します。

■移住定住促進リフォーム補助金交付事業

宮古市、大槌町、釜石市を除く町外から転入した人が、改修が必要な一軒家に住む場合の工事費用の半額(100万円を上限)を補助します。

■漁業就業者育成協議会家賃補助事業

漁業に就業するために移住し賃貸住宅に居住する

人に、家賃(月額25,000円を上限に最長1年間)を敷金・礼金(15万円を上限)に補助します。

■豊かな浜の担い手育成支援事業

新規に漁協の正組合員になり、専業として漁業を営む人や、新たな養殖種目を始める人に、補助金(新規漁業就業型の場合は30万円)を交付します。

■結婚新生活サポート補助金交付事業

町内で結婚生活を始める新婚世帯に、住居費と引っ越し費用の一部を助成します。

※このほかにも移住者向けの事業を行っています。



神奈川県(海老名市)から移住した
神子 芳弘さん(69)・多美枝さん(69)

神子夫妻は、町の移住お試し住宅やリフォーム補助金を活用して、今年5月に船越地区に移住。週に一度は、お孫さんが住む宮古市に出掛けています。天気の良い日は、荒神海水浴場で景色を眺めながら昼食をとり、のんびりと読書を楽しんでいるそうです。



その眺めがとても美しいです。もつと町のことを知るためにいろいろな場所に出歩きたいと思っています。

神子夫妻 住民の方々が、さくで優しいですね。会えば声を掛けてくれます。心配だった人間関係の不安は無くなりました。環境面で言えば、景色は本当に素晴らしい。特に荒神海水浴場が私たちのお気に入りです。正直なところ、介護保険料や健康保険料、食料品は都市部に比べて高い気がします。

■山田町の「強み」・「弱み」

三治道生かせる、仕事・教育の選択に限り

森 ほかの自治体にはない、山田町の「強み」と「弱み」はどういうところだと思いますか。

藤澤さん 海と山が両方ある自然環境は強みですね。私のようにアウトドアが趣味の人には最適な所です。ただ、生活するには「仕事」が必要。仕事の選択肢が少ないのは弱みですが、三陸沿岸道路で通勤圏が広がったのは強みに変わると思います。神子夫妻 三陸沿岸道路で内陸部にアクセスしやすくなったのは強みとして多方面に活かせると思います。若い世代の立場で考えると、働く場所もですが、教育体制も学校の選択肢が少ないことが弱みだと思います。年齢関係なく、大病したときの

時代をとらえ、魅力高める取り組み必要

森 町では、人口減少に歯止めを掛けるために町のホームページなどで紹介している移住・定住対策のほかにも、優良企業を誘致するための優遇制度や就労の場を増やすためのさまざまな取り組みを進めています。お二組からご意見などをお聴き

医療体制も都市部に比べると弱い部分ですね。

■「ひと」を呼び込むために求められるもの

若者が働きやすい環境、特徴ある教育を

森 ひと口に人口を増やすことと言っても、とても難しい大きな課題ですが、もっと多くの「ひと」を山田町に呼び込んでいくためには、何が求められると考えますか。

藤澤さん 「仕事がない」のであれば「仕事をつくれる人」に焦点を当てることも大事だと思います。ネット環境やオフィス施設などを整備して提供できたら、移住を考える人も増えるの

ではないでしょうか。

神子夫妻 今の時代、会社に行かなくても働ける状況ですから、テレワーク勤務がしやすい施設が整うといいですね。教育の面で言えば、若者や子育て世代は、通り一遍の内容では見向きもしません。山田町ならではの「特徴ある教育」をアピールできると「ここで子育てをしたい」と移住に前向きになる人も増えるかもしれませんね。

し、時代の流れや社会環境の変化などをしっかりとらえ、若者の働く場の確保や子育て世代に目を向けた特色ある教育の場づくりなど、必要な対策を進めていくことが重要だとあらためて感じました。

このような取り組みを国・県

とも連携し総合的、横断的に進め、移住者が求める本町の魅力をこれまで以上に高めていくことができないのではないかと思います。これからも移住コーディネートとして、町の魅力を全国に発信していきたいと思いま

対策あれこ
町はこんな事業
取り組んでいま